

バイク魅力子どもにも



川越市増形の入間川河川敷。ヘルメットにブーツ、ライダースーツ姿の子どもたちが一列に並んで、全長1メートルほどの小型モ

トクロスバイクにまたがってエンジン音を響かせる。段差の付いた土のコースを走り、横からインストラクターが「何で今ぐらついたか分かる？ 頭がぶれていたからだよ」「膝でしっかりバイクを挟んで」と指導した。子どもたちにバイクの乗り方を教えているのは、NPO法人「こども二輪塾」の指導者だ。月1回、初心者用モトクロスコース「ナショナルパーク川越」

で講習を開く。

二輪塾は、バイクレーシングチームのマネージャーだった矢島文夫さん(59)が「モーターサイクルスポーツの魅力をより多くの方に体験してもらおう」と2004年に設立した。「青少年の心身の健全育成に寄与する」ことを目的に掲げ、バイク乗車の技術だけでなく、基本的な安全確認やあいさつといったマナーも重点的に指導している。

東京都練馬区の小学1年・高橋鳴さん(6)は1年ほど二輪塾に通っており、「バイクに乗るのはちょっと怖いけど楽しい。練習を続けて、バイクの速さを上手に調節できるようにしたい」と話した。鳴さんの母・真美さん(46)もバイクの免許を持つ

二輪塾の活動を支えるのは男女約20人のインストラクターだ。指導する時はしっかりと子どもたちと視線を合わせ、笑顔を絶やさず和やかな雰囲気を作っている。

講習当日は朝早くから準備を

和やかな場 成長見守る

っており、「娘にも乗れるようになってほしくて通わせている。礼儀なども丁寧に指導してもらうので、順番を守り、あいさつがしっかりとできるようになった」と娘の成長に目を細める。講習中には、転倒した子どもに年上の子どもが駆け寄り、バイクを起こすのを手伝う場面も見られた。

わたしたち独自のものだ。ふらつかに橋脚軌道を描く練習をする第1段階から、立ったまま斜面を上り下りする第4段階まで用意している。カリキュラムと安全教育活動が評価され、日本で初めて日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)公認の「指定教習所」として認可された。矢島さんは「二輪塾をバイク以外でも様々な体験学習ができる場所になるように発展させ、子どもたちの成長と居場所づくりに貢献したい」と話している。(田野口遼)

インストラクター(中央奥)の指導を受けながら、バイクの運転を練習する子どもたち(川越市で)



こども二輪塾(川越市)

【こんな団体】 現在通っている子どもは幼稚園児から高校生まで約50人。県内や東京都のほか、長野県白馬村から通っている子どももいる。これまで学んだ子どもの数は延べ約1万2000人。モトクロス選手になった卒業生もいるという。

活動は月1回で、講習料金は1回につき税込み2700円。バイクやヘルメットなどのレンタルは無料。問い合わせは事務局(049・242・8419)へ。



こども二輪塾のメンバーたち(二輪塾提供)

二輪塾の卒業生も率先して活動を手伝っているという。矢島さんは「インストラクターを志願する卒業生もいて、二輪塾というコミュニティの成長を感じている。将来、この活動の中心を担うことを期待している」と話していた。